

北海道地方の1か月予報解説資料

(予報期間：6月30日から7月29日)

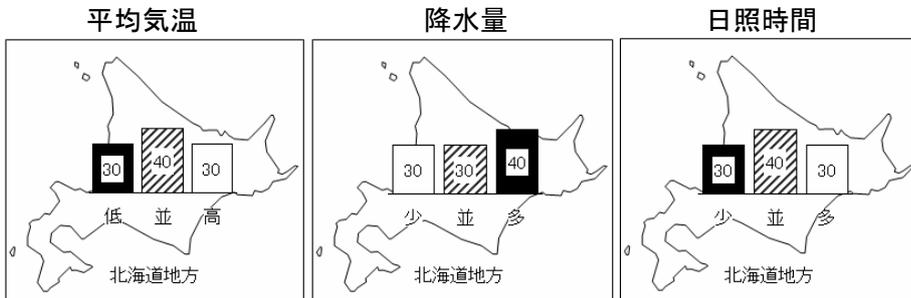
平成19年6月29日

札幌管区気象台

※特に注意を要する事項

なし。

1. 向こう1か月の各階級の出現率 (%)



2. 予想される天候の特徴

<向こう1か月> 天気は数日の周期で変わる。

6月30日～7月29日

<1週目> 太平洋側では曇る日が多い。その他の地方は概ね晴れる。

6月30日～7月6日

(週間予報を参照して下さい)

<2週目> 天気は数日の周期で変わる。

7月7日～7月13日

<3～4週目> 天気は数日の周期で変わる。

7月14日～7月27日

確率予報
(平均気温)



向こう4週間の
平年の日数

晴れ日数※1

日本海側 12.3

ホーツク海側 11.1

太平洋側 9.0

降水日数※2

日本海側 7.3

ホーツク海側 8.4

太平洋側 8.4

注

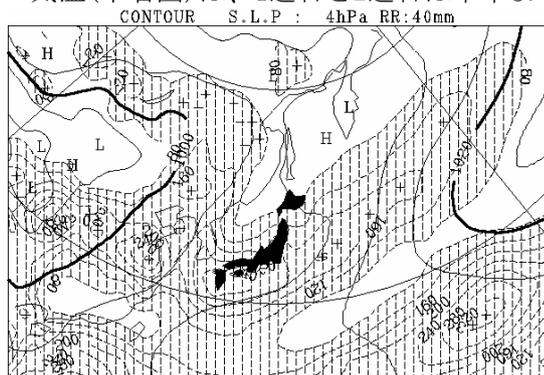
※1:日照率が40%
以上の日数

※2:日降水量が1mm
以上の日数

3. 予測資料

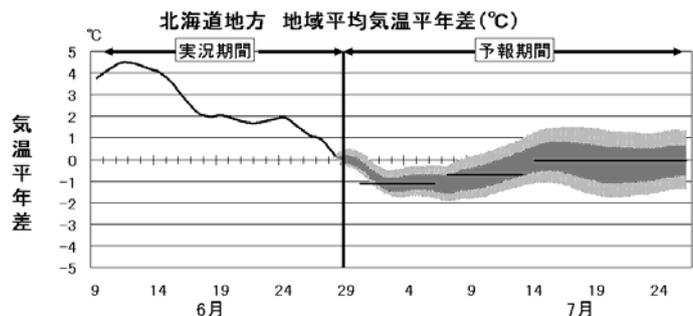
・予想地上天気図と気温時系列図の特徴：1か月平均(下左図)は、太平洋高気圧が日本の南に張り出し、オホーツク海にも高圧部があって、本州付近に前線帯がみられる。1週目(図略)は、オホーツク海から日本海にかけてが気圧の尾根となる。また、北海道の南を通過する低気圧が予想されており、気温の変動が大きくなる。2週目(図略)はオホーツク海に高気圧があらわれる。3～4週目(図略)はオホーツク海の高気圧は弱まる一方、太平洋高気圧が強まって、本州の前線帯は北上傾向。

気温(下右図)は、1週目と2週目は平年より低く、3～4週目は平年並。



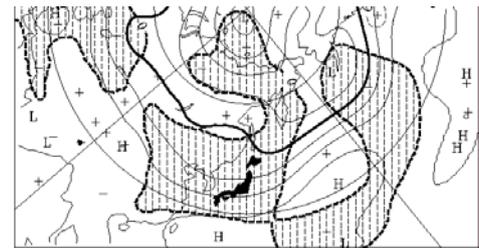
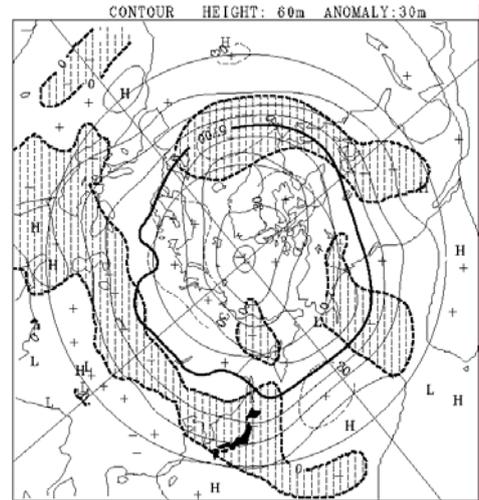
向こう1か月平均の海面気圧と降水量予想

(陰影部分は降水量80mm以上)



・実況期間の太い実線(黒): 地域平均気温平年差(7日平均値)
・予報期間には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い陰影)と信頼の程度が70%の幅(濃い陰影と薄い陰影)を表示
・水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3～4週目の平均。

・ 予想500hPa天気図の特徴：1か月平均(右上図)では、北太平洋で正偏差が強く、沿海州付近も気圧の尾根で、カムチャツカから日本の東海上にかけてが気圧の谷となる。日本付近は負偏差に覆われる。1週目(図略)は日本の東海上が深い気圧の谷となって偏西風の蛇行が大きく、北海道付近で低気圧が発達しやすい。2週目(右下図)は北太平洋の正偏差は次第に弱まるが、沿海州付近は引き続き気圧の尾根で、一時的にオホーツク海高気圧が出現する可能性がある。3~4週目(図略)は、偏西風の蛇行は弱まり、日本付近は広く正偏差となる。



500hPa 予想天気図

上から順に向こう1か月平均、2週目
実線は等高度線、破線は高度平年偏差
(陰影域は負偏差)

4. 最近1週間の天候経過<6月22日から6月28日>

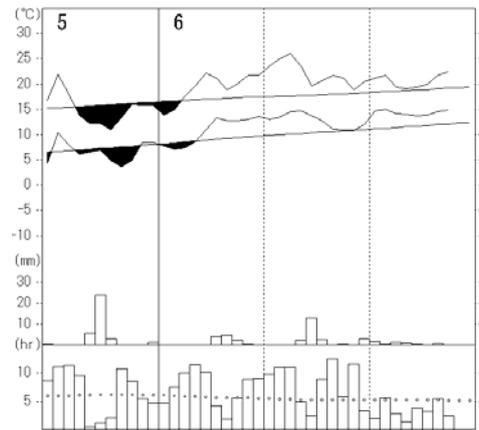
この期間は、気圧の谷の中で曇りの日が多く、大気の状態が不安定となって所々で雨が降った。22日は日本海側で、26日は日本海側北部とオホーツク海側で、27日はオホーツク海側と太平洋側で晴れた。

昨日まで(6月23日~6月28日)の平年差(比)は、気温は+1.7°Cで平年より高かった。降水量は、平年を大きく下回る所が多かった。日照時間は、平年を下回る所が多かった。

最近2週間の気象表

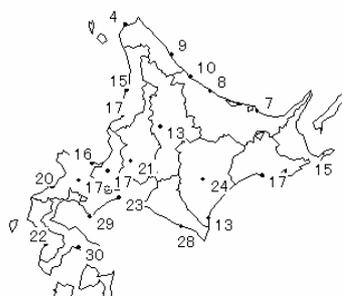
前々週	(6月16日~6月22日)		
	平均気温 +2.0°C (高い)	降水量 47%	日照時間 135%
前週	(6月23日~6月28日)		
	平均気温 +1.7°C (高い)	降水量 33%	日照時間 61%

*この値は北海道の気象官署 22地点平均の速報値です。
*平均気温の()内は階級で、「高い」・「平年並」・「低い」の3階級で表しています。
*前週の期間は昨日迄の最近6日間の値です。

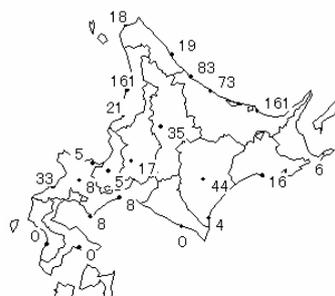


北海道22地点平均の気象経過
(5月21日~6月28日)

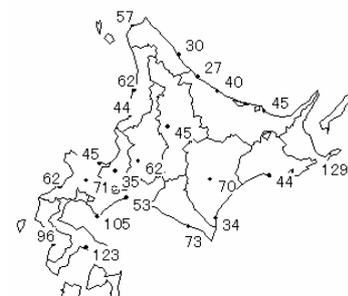
上から順に最高気温・最低気温・降水量・日照時間



気温平年差 (0.1°C)



降水量平年比 (%)



日照時間平年比 (%)

前週の気温、降水量、日照時間の平年差・平年比 (6月23日~6月28日)

注：1か月予報では大気の流れの状態により、予測しやすい場合と予測しにくい場合があります。このため、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用し、数値予報の結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します(この手法をアンサンブル予報といいます)。一般に予報結果がばらつかないほど(ばらつくほど)確かなことが言えるようになり(言いにくくなり)、信頼度が大きく(小さく)なり、最大予報確率も大きく(小さく)なります。またこの多数の予報結果を平均した予報(アンサンブル平均予報)は最も信頼性が大きい予報と考えられます。